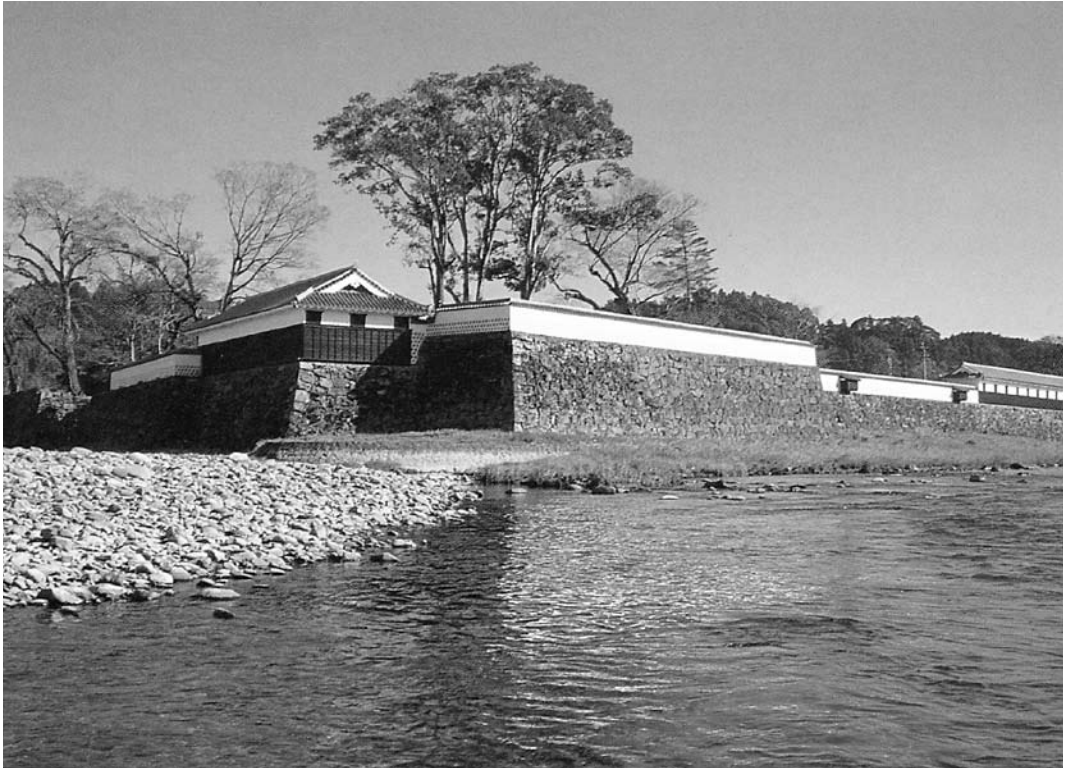


訪ねて・見て・触れる

# 人吉の文化財



歴史的建造物復元（史跡人吉城跡）角櫓・長堀・多門櫓

人吉は、鎌倉時代から江戸時代の終わりまでの約670年間、相良氏という武家が統治しました。川面に映ゆる古城の石垣、町や里に点在する古社寺群や石塔。中世の文化が今でも息づく「ひとよし」を文化財をたどりながら歩いてみましょう。

## 人吉略年表

西 暦	事 項
600頃	大村横穴群、築造される
806	青井阿蘇神社、創建される
807	老神神社、創建される
1177	相良長頼、遠江国（静岡県）に誕生
1193	長頼の父頼景、多良木荘に下向
1198	長頼、人吉荘に下向
1199	人吉城の修築時、三日月文様の石出土
1205	長頼、人吉荘の地頭に任命される
1233	願成寺創建
1243	井口八幡神社創建
1281	3代頼俊、元寇に出兵する
1334	建武の新政、内乱となり、人吉と多良木の相良両家争う
1356	6代定頼、葦北郡を領地とする
1383	7代前頼、南朝方となり球磨・芦北の安堵
1394	前頼兄弟、都城で戦死
1448	山田城主永留長統、多良木相良を滅ぼし、相良本家を継ぎ、11代人吉城主となる
1460	肥後国守護から球磨・葦北を安堵される
1465	八代城主名和氏から高田郷を譲られる
1470	12代為統、従五位下左兵衛門尉となる 人吉城の史料での初見
1477	薩摩の牛くそ院を譲りうける
1484	八代城をうばい、豊福を支配 三郡の支配はじまる
1487	多良木城主相良頼泰の乱
1493	為統、「七か条法度」を制定
1498	菊池氏の豊福攻撃 翌年、八代放棄
1501	13代長毎、高田を拠点に八代の名和氏攻撃
1504	名和氏は宇土に替地となり、八代を奪還する
1524	14代長祇の家督相続に不満の長定が反乱
1525	長定、人吉城主となり、長祇は水俣で自害
1526	瑞堅の乱 長唯、瑞堅を討ち16代となる
1533	長唯、八代新城・関城を築く
1534	八代城麓の館を拠点に三郡支配を開始
1535	守護の菊池義宗、八代に亡命
1536	相良為清、名和氏の娘と結婚
1539	外洋船を建造し、八代徳淵港から海外貿易する

1545	長唯、官位受領 名を義滋と改称し戦国大名として確立する 嫡子の為清も晴広と改称する
1546	義滋、二十一カ条の式目制定 死去
1547	八代衆、高塚城を改修
1555	「晴広法度」制定 一向宗を禁制 晴広逝去 頼房12歳で当主となる 薩摩大口を入手する
1557	上村三兄弟の乱
1559	八代と球磨で領内を二分する内乱おこる
1561	球磨に鉄砲が伝わる
1562	高塚城を本城とする計画で改修する
1563	頼房、十三ヶ条の法度制定
1564	頼房任官 名を義陽と改称 大口城代、島津氏と交戦
1567	大口市山合戦で島津軍と交戦
1568	大口初栗野合戦で島津氏と交戦
1569	大口砥上の合戦で島津義久に大敗、大口を失う
1579	島津軍、葦北郡久木野宝河内城を攻撃
1580	島津軍水俣浜口・佐敷斗石の相良軍と交戦
1581	島津氏、大軍で水俣城を包囲し相良氏降伏 義陽、益城の響野原で討死 頼貞の乱
1585	忠房の急死で長毎20代人吉城主となる
1586	長毎、島津軍とともに豊後大友氏を攻撃
1587	長毎、佐敷で秀吉に謁見し球磨郡を安堵される
1589	豊後石工を呼び人吉城の改修を始める
1592	文禄の役に出陣
1596	慶長の役に出陣
1600	関が原合戦で徳川方に内通し、大垣城を開城させ、徳川方に帰順する 球磨郡の安堵なる
1639	藩主頼寛、相良清兵衛を幕府に訴える
1640	清兵衛江戸に召喚、人吉城内で「お下の乱」
1641	藩主、民意を鎮めるため青井神社の祭礼を復活
1664	球磨川開削、百太郎溝・幸野溝の用水整備
1862	寅助火事で城下・人吉城を焼失
1869	35代頼基、版籍奉還により人吉藩知事となる
1871	頼基、廃藩置県で人吉県令となるが、11月に八代県となり、公職を離れる
1877	旧人吉藩士、西郷軍に属し西南の役に従軍 人吉の町は戦場となり焼失



# 人吉市の文化財地図

本書では、人吉市の文化財を小学校の校区別に分けて、主要なものを解説しています。皆さん！文化財を訪ねて、見て、触れて、人吉の歴史を体感しましょう。



## 【東校区の文化財】



④石造五重塔（市指定有形文化財）土手町永国寺

「嘉禄三年（1227）四月二十四日大檀那藤原□重」の銘文が刻まれた球磨地方最古の在銘の重層石塔である。現在は四重で相輪と傘の一部は他のもので補充してある。銘文中の藤原□重の□は不明文字だが、相良氏初代の長頼の弟宗頼の子である頼重に推定されている。



②老神社本殿、拝殿及び神供所  
（国指定重要文化財）老神町

祭神は霧島神宮と同じで、大同2年（807）の創建とされる。現在の本殿は寛永5年（1628）に相良長毎が再建したもので、華麗な装飾をもつ。本殿は万治2年（1659）建造の茅葺の覆屋に保護されており、かぎ型配置の拝殿・神供所（じんくしょ）は、江戸時代中期の寛延2年（1749）建造と推定されている。

③堀合門（市指定有形文化財）土手町

堀合門は城主であった相良氏の御殿の裏門であった。明治5年の廃藩置県で人吉城内の建物が全て撤去された時、一族である新宮家の自宅の門として移築された。当門は現存する唯一の人吉城の建造物である。



①人吉城跡（国指定史跡）麓町

相良氏の居城として使用された中世からの山城を前身とし、天正17年以降には石垣造りの城に改修されている。三日月の文様をもった石が出土したので、「絨月城」の雅称をもつ。

外堀となる球磨川沿岸に延々とした石垣を築いた「川の城」であり、類例のない「井戸のある石造地下室」、幕末に西洋式の技術を採用したハネダシ式の石垣など、特異な構造をもつ。復元された櫓の一つ多門櫓は、無料で開放されており、城跡の説明が見られる。



⑤御館御門橋（県指定有形文化財）麓町

明和3（1766）年に築造された石橋である。江戸時代の土木技術を知る遺構として貴重な建造物で、銘文のある石造多脚式橋梁としては県内最古のものである。



⑧大信寺地藏堂・木造地藏菩薩立像（熊本県指定重要文化財）南泉田町

大信寺は中世寺院の鐘音寺、密厳院の旧地に寛文3年（1663）に創建された浄土宗寺院である。境内の地藏堂は正保2年（1645）の建立と推定され、享保16年（1731）に瓦葺に改修されている。類例の少ない3間四方の宝形造（ほうぎょうづくり）、土間式の建築である。堂内の地藏菩薩立像は相良家7代の前統の影象と伝わる南北朝期の像である。本堂の阿弥陀三尊像も未指定だが、鎌倉時代の優れた彫刻である。



⑨木造阿弥陀如来坐像  
（国指定重要文化財）北願成寺町願成寺

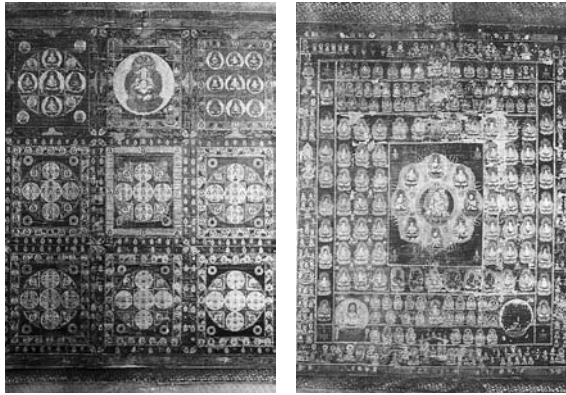
桧材・寄木造・彫眼・漆箔で鎌倉時代初期の作である。高さ1.08mで、結跏趺坐、上品下生の印を結び、円満な顔付、豊満な肉付の優美な彫刻である。

本像は元は多良木の如法寺（一説には深田勝福寺）にあったもので、湯前普門寺を経て万治元年（1658）に願成寺に安置されている。



⑩木造不動明王立像  
（熊本県指定重要文化財）北願成寺町願成寺

元は願成寺の東にあった新山不動堂の本尊である。高さ95cm、桧材、一木造りで焰後背を負って立つ。憤怒の表情はおだやかに容姿も優美で、特に腰衣の結び目が美しい。製作は平安時代末と推定されるが、岩座・宝剑・索縄・光背は後の補修である。



けんぽんちゃくしよくりょうかいまんだら  
⑪絹本着色両界曼荼羅  
(県指定重要文化財) 北願成寺町願成寺

両界曼荼羅は真言密教の根本を图示した金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅からなり、大日如来を中心に諸尊を整然と配置した図柄となっている。寺伝では弘法大師または宅磨為久の作とするが、南北朝時代の製作である。県下で最も古い優作である。



⑬石造三重塔  
(市指定有形文化財) 北願成寺町願成寺

元は願成寺金堂前に立っていた中世の石塔で、高さ1.86mである。屋根瓦を彫り出した木造塔に似せた優品である。



⑫石造七重塔  
(熊本県指定重要文化財) 願成寺本堂前

高さ3.7mで、屋根裏四隅に尾垂木を彫り出す「人吉様式」の多重石塔である。塔身に銘文はないが、様式上から鎌倉時代前期の建造と推定される。元は願成寺の金堂前に建てられていたものである。



⑭相良家墓地 (県指定史跡) 北願成寺町

鎌倉時代から幕末まで当地方の領主であった相良氏当主や家族、一族の墓地である。願成寺本堂跡の裏山に約250基の五輪塔を主体に整然と配置されている。第一墓所は中世期の石塔群で、灯籠を配した第二墓所から第五墓所は歴史の人吉藩主などの墓地となっている。



⑤国宝 青井阿蘇神社社殿

上青井町

大同元(806)年に阿蘇神社の分霊を勧請して創建。

鎌倉時代初期に相良氏が遠江(静岡県)から当地へ入国してからは氏神としての崇敬を受け、地域色を強めながら独自に発展していった。

現在の社殿群(本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門の五棟)は慶長15(1610)から同18年にかけて人吉藩主の相良家20代長毎(ながつね)の命により一連で造営されたものである。

社殿の特徴としては、急勾配の茅葺屋根や軒から下を黒漆塗としつつ、組物や部材の面に赤漆を併用する技法など人吉球磨地方の独自性の強い意匠を継承する一方、彫刻や彩色、鏝(かざり)金具などは桃山期の華麗な装飾性を機敏に摂取しており、その後の当地方社寺造営の規範となっている。また、廊の龍にみられる秀麗な彫刻や特異な拝殿形式は、広く南九州地方にその影響が認められるものである。

熊本県に県内に現存する文化財としては初の国宝となる。



## 【西校区の文化財】

⑥青井阿蘇神社の楠

(市指定天然記念物) 上青井町

樹齢不明。東北・西南の2幹に分かれ、根回り18m、樹高19mである。当地方では最大のクスの老樹である。



⑦大村横穴群 (国指定史跡) 城本町

人吉駅北側の村山台地の南側、高さ20mほどの凝灰岩の崖面に27基の横穴が東西2群に分かれて分布する。横穴入り口の壁面に、動物・武具・武器・幾何学の彫刻がある装飾古墳が、東群に7基、西群に1基、所在する。横穴は1600年ほど前の古墳時代後期の墓で、大村横穴群は装飾古墳としても、分布上の南限となる。



## ⑭井ノ口八幡神社神殿

(熊本県指定重要文化財) 井ノ口町

祭神は鎌倉の鶴岡八幡宮と同じで、宝治元年(1247)に相良氏によって創建されたとされる。現在の本殿とかぎ型配置の拝殿・神供所(じんくしょ)は、元禄12年(1699)に再建された建物で、当地方を代表する江戸時代建築物である。境内には伊勢宮・阿弥陀堂・薬師堂・毘沙門堂なども建ち並んでいる。



## ⑮木造薬師如来坐像

(熊本県指定重要文化財) 井ノ口町薬師堂

元は井ノ口町の東側山麓にあった井ノ口(せいこう)寺の本尊である。桧の寄木造で、玉眼。火災にあい、肩・ひざ・腕など、寛文2年(1662)に修理されている。鎌倉時代後期の作である。



## 城本の笠塔婆

(市指定有形文化財) 下城本町

熊本県における鎌倉時代までの在銘石塔は56基あり、人吉球磨地方では17基が確認されている。

この笠塔婆は、笠部を欠損し、正面には阿弥陀三尊の種子である「キリーク・サ・サク」、左面、右面、及び裏には胎藏界大日如来や多宝如来にあてられる「ア」の種子が薬研彫りで刻まれている。さらに裏面には「正應貳年 己丑 比丘尼上妙生年八十八九月九日」の銘がある。

塔身に刻まれた銘文から、この笠塔婆が、鎌倉時代の正應2(1289)年に88歳で亡くなった比丘尼上妙の墓塔として造られたものであることが解る。この「比丘尼上妙」については誰なのか、また、墓塔を誰が造立したのか特定出来ない。

しかしながら、史料の少ない鎌倉時代に造立された墓塔であり、人吉球磨地方の中世史を解明する上で貴重な資料である。



## ⑯馬草野の庚申塔

(県指定有形民俗文化財) 上原田町馬草野

庚申塔は庚申の日の晩に眠らずに仏事を行う信仰を記念して建立された塔で、当地方には多くの塔が残されている。馬草野の庚申塔は天文8年(1539)の建立で、初期の信仰を表す石塔である。恵文以下18名の生前の法名である交名が刻まれている。

## 【中原校区の文化財】

## ⑰長福寺阿弥陀堂

(市指定有形文化財) 下原田町上野

当寺は室町時代のはじめ原田地頭の豊永家の菩提寺として創建された寺院だが、現在は廃寺である。阿弥陀堂はもともと3間四方の茅葺の堂であったが、現在は奥行き2間に縮小され、屋根も瓦葺となっている。天文7年(1538)の建立と推定され、市内で最古の建物である。



## ⑱真宗禁制の遺物一括

(県指定有形民俗文化財) 下林町楽行寺

相良氏は戦国時代から江戸時代まで領国内での浄土真宗の信仰を禁止していた。しかし、講を組織して隠れながらも信仰する者があり、山田村の伝助などの処刑された人物がいた。楽行寺には傘・まな板に見せかけて親鸞や阿弥陀如来像を隠しこむように工夫された遺物が伝来している。



## ⑲眼鏡橋 (市指定有形文化財) 下原田町西門

嘉永7年(1854)に石水寺の参道として馬水川に架橋された当地方唯一の江戸時代建造のアーチ式石橋である。長さ21.4m、高さが最高で7.1m、幅2.7mの規模である。右岸側にはトンネルがあり、増水時に水を流す工夫がある。石水寺境内の海棠は、樹齢500年とも伝わる県下に稀な古木で、市指定の天然記念物である。毎年、4月8日に海棠まつりが行われている。



⑮東林寺岩壁画（市指定史跡）浪床町

田町の町並みに面した東林寺の旧参道の岩壁に20数体の仏・菩薩・神像などのほか「開路の句」の彫刻がある。この参道は延宝8年に当寺院の開山僧である天瑞和尚が築いたもので、仏などの彫刻も同時期のものと推定される。



⑯矢瀬ヶ津留（市指定史跡）東間下町

建久9年（1198）12月、人吉に下向した相良家初代の長頼は、人吉城代の矢瀬主馬助を胸川の河原に誘殺し、人吉城に入城した、と伝わる。江戸時代になり、矢瀬氏供養のため石塔が建立されている。近隣では今でも一本門松を立てる風習が残されている。



⑰岩屋熊野座神社

（国指定重要文化財）東間上町

古くは岩屋権現とも称し、祭神は和歌山県の熊野神社と同じで、相良氏によってたびたび修理されている。覆屋内に並立している3棟の本殿は、室町時代から戦国時代末の建造と推定される。本殿覆屋・拝殿は享保12年（1727）の建造である。参道入口の鳥居は、元禄14年（1701）建立で、当地方唯一の権現造りであり最古の石鳥居でもある。

## 【東間校区の文化財】



⑱古仏頂観音堂境内地

（市指定史跡）古仏頂町

町外れの高台に石垣で囲まれた寺院跡があり、観音堂と阿弥陀堂が建っている。山際には五輪塔群や山の神社跡の礎石も並んでいる。由来は不明だが、山里の寺社景観を残す好例である。

観音堂内には安置の木造伝観音菩薩坐像は永享12年（1440）の銘文をもち、市指定の有形文化財である。



⑲カマノクド

（県指定天然記念物）赤池原町内鳩胸川河川敷

凝灰岩を浸食して流れる鳩胸川の水が岩盤を深くえぐり、また水流によって回転する小石が岩盤に窪みを作り出した奇岩群である。

⑳阿弥陀三尊石塔婆

（市指定有形文化財）七地町菅原神社境内

特異な形式の塔婆で、水輪は六稜、火輪と空輪は八稜で、水輪の正面に阿弥陀三尊の種子を陰刻している。永正5年（1508）の建立で、元は北側の球磨川近くにあった清明寺にあったものと推定される。



㉑鹿目の滝（市指定天然記念物）鹿目町

人吉市街地から西南西の方向約7kmの鹿目川の溪谷中にある。高さは雄滝が36m、雌滝が30mある。豊富な水量が流れ落ちるさまは、豪快で、8月上旬には滝まつりが開かれている。



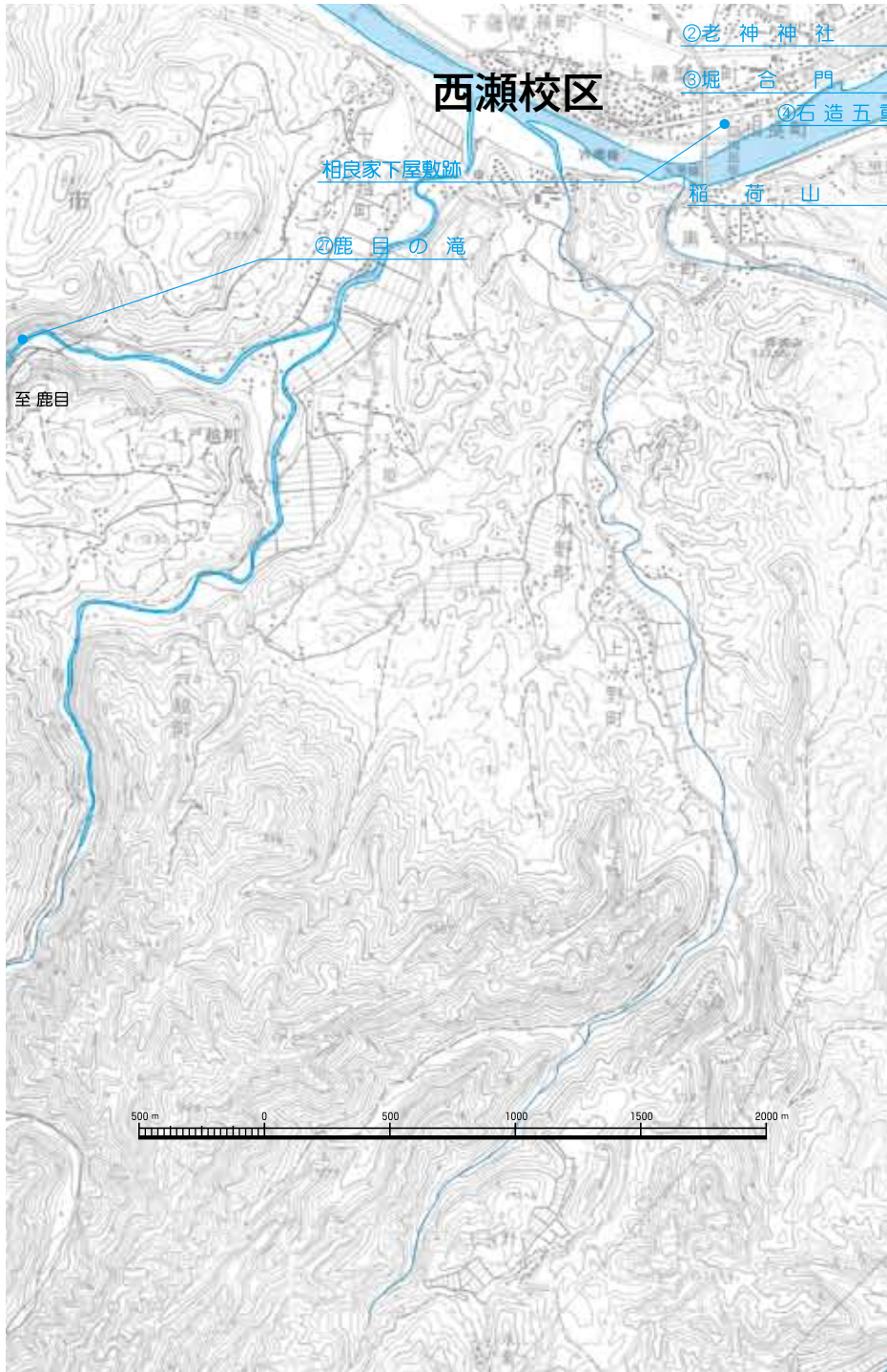
## 【西瀬校区の文化財】



旧国鉄矢岳駅駅長官舎（国登録文化財）矢岳町

この建物は、明治42（1909）年の肥薩線開通にともなう一連の鉄道施設として矢岳駅近くに建築されました。全国的にも残存例の少ない明治期の鉄道官舎の一例です。

## 【矢岳校区の文化財】



## 堀合門（復元建造物）

堀合門は城主が住む御館の北側にあった裏門で、文久2年（1862）の「寅助火事」でも焼失をのがれました。明治4年（1871）の廃藩置県後は、城外の土族である新宮家（土手町）に移築され、人吉城唯一の現存する建造物として、市の有形文化財に指定されています。形式的には棟門と呼ばれるもので、化粧垂木に強い反りを持たせた屋根の優美な曲線が特長的です。

門跡の発掘調査では、門柱を建てた2つの礎石跡とその両側にあった排水溝が確認されました。この門は、旧位置での発掘結果や移築され現存する門、絵図に描かれた姿に基づいて、平成19年度に塀や排水溝とともに復元したものです。

平成20年3月 人吉市教育委員会



歴史的建造物復元（史跡人吉城跡）堀合門

人吉市教育委員会教育部社会教育課

〒868-8601

熊本県人吉市麓町16番地

TEL 0966 (22) 2111 (内線5231)

FAX 0966 (22) 7019

<http://www.city.hitoyoshi.kumamoto.jp>

E-mail [syakaikyoku@city.hitoyoshi.lg.jp](mailto:syakaikyoku@city.hitoyoshi.lg.jp)

平成20年3月31日

印刷：有限会社 ソーゴグラフィックス